

お詫びと訂正のお知らせ

本誌「建設荷役車両」第250号（2020-11月）の記事「車両系荷役運搬機械の労働災害による死亡災害の推移と令和元年における発生状況」（31～32頁）において、下記の通り、誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

記

- ・令和元年フォークリフトに起因する死亡者数：19名は、正しくは20名となります。
 - ・（表1）フォークリフトの種類別・業種別死亡災害発生状況：建設業 0名は、正しくは1名となります。
 - ・（表2）フォークリフトの種類別・事故の型死亡災害発生状況：墜落・転落 5名は、正しくは6名となります。
- したがって、令和元年車両系荷役運搬機械の労働災害における死亡者数：24名は、正しくは25名となります。

事務局

1) 車両系荷役運搬機械の労働災害による 死亡災害の推移と令和元年における発生状況

建設荷役車両安全技術協会 本部

平成17年からの車両系荷役運搬機械の労働災害による死亡者数の推移がグラフ1の折れ線グラフ、また機械の種類別の内訳が棒グラフである。

令和元年の死亡者数は24名であり、平成17年の45名と比べると、21名の減（47%減）であった。これはフォークリフト発生件数の減によるものであり、ここ数年1～3件の発生であった不整地運搬車は、5件の発生となり、平成21年（7件）以来の高い数値となった。

令和元年に発生した車両系荷役運搬機械の労働災害による死亡者数は、前年の27名に比べ3名減（11%減）となった。

機械の種類別・業種別の死亡者数は表1・グラフ2のとおりである。

機械の種類別では、フォークリフトに起因するものが19名（前年比7名減）で、不整地運搬車は5名と前年に比べ4名増となった。

業種別でみると、製造業が7名と多く、全体の29%を占めている。次いでその他5名、農林業/畜産・水産業4名となっている。

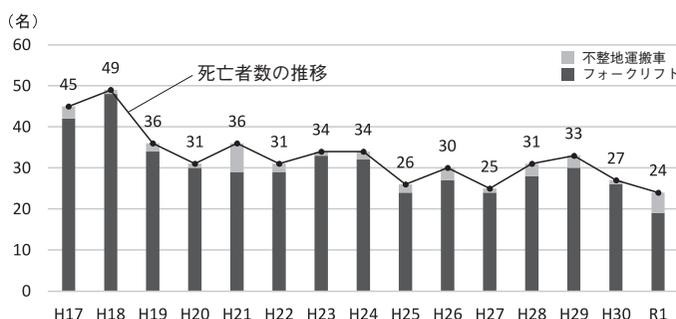
次に、車両系荷役運搬機械の種類別・事故の型に分類したものが表2・グラフ3である。

最も多いのは「墜落・転落」によるもので9名、次いで「転倒」5名、「はさまれ・巻き込まれ」4名と続き、この3項目は今年も上位を占めた。

災害の発生概要をみると、フォークリフトのうち「オーダーピッキングトラック」（運転席とともにフォークが上下に昇降する）で2件の高所からの墜落が発生しており、安全帯の完全着用が望まれる。

また、災害が多発した不整地運搬車については、発生5件のうち、「墜落・転落」によるものが4件であった。

[資料提供：厚生労働省]



グラフ1
車両系荷役運搬機械の労働災害による死亡者数の推移

1) 車両系荷役運搬機械のうち特定自主検査対象機械

表1 車両系荷役運搬機械の種類別・業種別死亡災害発生状況（令和元年）

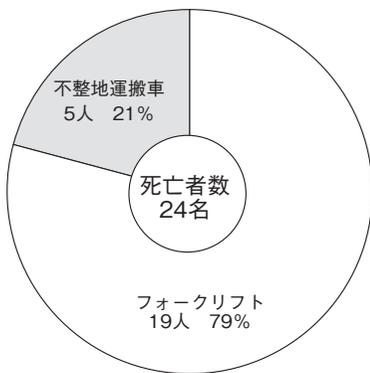
（単位：名）

業種 機械の種類	運輸交通業/貨物取扱業						農林業/ 畜産・ 水産業	商業	その他	計
	製造業	鉱業	建設業	道路貨物 運送業	陸上貨物 取扱業	港湾荷役 運送業				
フォークリフト	7	0	0	2	1	0	3	2	4	19
不整地運搬車	0	0	3	0	0	0	1	0	1	5
	7	0	3	2	1	0	4	2	5	24

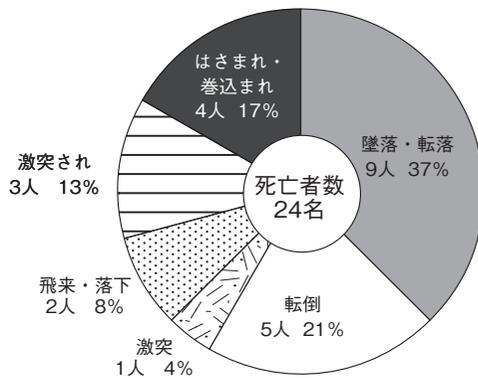
表2 車両系荷役運搬機械の種類別・事故の型別死亡災害発生状況（令和元年）

（単位：名）

事故の型 機械の種類	事故の型別								計
	墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	はさまれ・ 巻込まれ	その他	
フォークリフト	5	5	0	2	0	3	4	0	19
不整地運搬車	4	0	1	0	0	0	0	0	5
	9	5	1	2	0	3	4	0	24



グラフ2 機械の種類別



グラフ3 事故の型別